

科研バックエンド問題研究会
「高レベル放射性廃棄物(HLW)処理・処分施設の社会的受容性に関する研究」
第9回研究会

日本における地層処分概念の展開

主催: 早稲田大学レジリエンス研究所(WRRI)

<http://www.waseda.jp/prj-matsuoka311/>

共催: 早稲田大学アジア太平洋研究センター(WIAPS)

1. 目的

地層処分に関する歴史的流れをみると、1998年の原子力委員会の高レベル放射性廃棄物処分懇談会報告、1999年の第2次取りまとめ「地層処分の技術的信頼性」から2000年の最終処分法の制定へとつながっている。福島原発事故を踏まえ、国は科学的有望地(科学的特性マップ)を社会に提示し、国が前面に立って地方自治体に地層処分の文献調査受入れを要請する方針を決めた。

しかし、福島原発事故後の原子力を取り巻く厳しい社会状況の中で立地選定プロセスは進まず、2016年中に公表予定であった科学的有望地(科学的特性マップ)の提示が先送りされるなど、日本のバックエンド問題の解決への道筋は極めて不確実な状況である。

かかる状況をふまえ、本研究会では、日本における地層処分概念の歴史的発展に関して、実施主体である原子力発電環境整備機構(NUMO)の梅木博之理事に講演いただき、参加者との討論・議論を行い、今後の日本の地層処分政策のあり方について考えたいと思う。

なお本研究会は、科学研究費補助金・基盤研究(B)(16H03010)「高レベル放射性廃棄物(HLW)処理・処分施設の社会的受容性に関する研究」(研究代表者:早稲田大学教授・松岡俊二、平成28年度~平成30年度)に基づくものである。

2. 日時・会場

日時: 2017年7月25日(火) 18:00~20:00

会場: 早稲田大学(早稲田キャンパス) 19号館7階713会議室

<https://www.waseda.jp/top/access/waseda-campus>

3. 内容

司会: 松岡 俊二(早稲田大学アジア太平洋研究科・教授)

報告: 梅木 博之(原子力発電環境整備機構(NUMO)・理事)

「地層処分の概念的発展と実現への取り組み」

討論: 竹内 真司(日本大学文理学部・教授)

井上 弦(神奈川県農業技術センター・技師)

4. 申込先: 会場設定などの関係上、参加を希望される方はメールで事前連絡ください。

【宛先】 jyuten-fukkou@list.waseda.jp (※を@ (半角) にして送信ください)

【件名】 7/25 研究会参加申込

【内容】 1. 氏名(フリガナ) 2. ご所属 3. メールアドレス